

気象研究ノート、アンケートのお願い

気象研究ノートは、まもなく記念すべき第200号を迎えることとなりました。ここまで継続してこられたのは、ひとえに執筆者の皆様のご努力、歴代の編集委員長・委員諸氏の献身的な働き、学会事務局のたゆまぬお力添え、そして会員一同のご支援によるものと感謝する次第です。気象学および関連分野における様々なテーマについての詳しいテキスト、解説書(あるいは、字義通りの研究の「ノート」)を提供していただくことができました。

しかしながら、21世紀を迎えた今日、これからの研究ノートの目指すべき方向性は必ずしも明らかではありません。気象学関係の書物といえば、ほんの数種類の教科書が出版されているのみという時代に創刊された本シリーズですが(当初は「予報研究ノート」、それに「物理気象研究ノート」が合併、名称変更;200号までの巻号テーマ一覧を別紙掲載)、今や商業出版物として多くの書物に囲まれている時代です。このような状況にもかかわらず、研究ノート出版の意義が薄れたとは思えません。商業出版にはのらないジャンルの書物も気象学の発展のためには必要でしょう。従って、おのずから研究ノートの役割も変わってきているということでしょうか。

研究ノートは、これまで、編集委員が中心となって周囲の会員の声を聞き、企画し執筆依頼をし出版してきました。十分皆さんの声を反映してきたつもりではありますが、果たしてどうでしょうか。必ずしも十分に会員の皆さんの意見が反映されていない面もあるかもしれません。

そこで、第200号という節目の時に、改めて会員の皆様の声をうかがい、これからの研究ノート出版の新しい方向性をさぐってまいりたいと、下記アンケートを実施することとなりました。より良い研究ノートを、より

気象研究ノート編集委員会

多くの会員の意見を反映した出版を続けていくことが、理事会の要請でもありますし、編集委員一同の意向でもあります。どうかご協力ください。

記

以下の項目に対するご意見をください。

1) これまでの研究ノートで特に役に立った特集を3つ以内で挙げてください。

それはどのようなところが良かったですか。

2) テーマや執筆者の具体的提案について(キーワードでも結構です)。

3) 最近の企画やこれからの方向性・ありかたについてご意見をお寄せください。

下記気象学会事務局宛、12月21日までに、郵送、ファックスないし電子メールにてご連絡ください。

アンケート返信先: 日本気象学会事務局

郵送: 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

Fax: 03-3216-4401

電子メール: metnote@mri-jma.go.jp

(この分気象研究所宛)

気象研究ノート編集委員会第31期委員:

<委員長> 山内 恭 (国立極地研究所, 理事)

<委員> 澤井哲滋 (気象庁予報部, 理事), 藤吉康志 (北海道大学低温科学研究所, 理事), 遊馬芳雄 (北海道大学理学研究科), 早坂忠裕 (総合地球環境学研究所), 清野直子 (気象研究所), 隈部良司 (気象衛星センター), 篠田雅人 (都立大学理学研究科), 田畑 明 (気象庁総務部), 高野清治 (気象研究所), 辻村 豊 (気象大学校), 村松照男 (札幌管区气象台), 山中大学 (神戸大学自然科学研究科)

事務局: 石水尊久 (東京管区气象台)

気象研究ノート 巻号テーマ一覧

号	年月	巻号	表題	執筆・編集者
1	1950.1	I-1	(「予報研究ノート」気象研究所刊行)	渡辺次雄他
2	1950.2	I-2		渡辺次雄他
3	1950.3	I-3		高橋浩一郎他
4	1950.4	I-4		倉嶋 厚他
5	1950.5	I-5		渡辺次雄他
6	1950.6	I-6		小河原正己他
7	1950.7	I-7		渡辺次雄他
8	1950.8	I-8		藤田敏夫他
9	1950.9	I-9		杉本 豊他
10	1950.10	I-10		畠山久尚他
11	1950.11	I-11		荒川秀俊他
12	1950.12	I-12		桜庭信一他
13	1951.1	II-1		渡辺次雄他
14	1951.2	II-2	(以後日本気象学会より刊行)	窪田正八他
15	1951.3	II-3		関谷 溥他
16	1951.4	II-4		飯田睦治郎他
17	1951.6	II-5		今堀克巳他
18	1951.6	II-6		渡辺次雄他
19	1951.7	II-7	台風特集号	荒川秀俊他
20	1951.8	II-8		桜庭信一他
21	1951.12	II-9		渡辺次雄他
22	1952.1	III-1		沢田竜吉他
23	1952.2	III-2		今堀克巳他
24	1952.5	III-3		荒川秀俊他
25	1952.6	III-4		渡辺次雄他
26	1952.8	III-5		荒川秀俊他
27	1952.9	III-6		渡辺次雄他
28	1952.11	III-7		渡辺次雄他
29	1952.12	III-8		松本誠一他
30	1952.12	III-9, 10		松本誠一他
31	1953.3	IV-1		鈴木栄一他
32	1953.4	IV-2		荒川秀俊他
33	1953.6	IV-3		関谷 溥他
34	1953.8	IV-4		小倉義光他
35	1953.10	IV-5		渡辺次雄他
36	1953.12	IV-6		K. S. 他
37	1954.1	V-1		堀内剛二他
38	1954.3	V-2		斉藤将一他
39	1954.6	V-3	凶作特集号	高橋浩一郎他
40	1954.8	V-4	数値予報特集号	岸保勲三郎他

41	1954.10	V-5	数値予報特集号	大山勝通他
42	1954.12	V-6		佐々木嘉和他
43	1955.2	VI-1		鈴木清太郎他
44	1955.4	VI-2		毛利圭太郎他
45	1955.6	VI-3		斉藤直輔他
46	1955.9	VI-4, 5	天気図解析の基礎	沢田龍吉
47	1955.10	VI-6		荒井 康他
48	1955.12	VI-7		田原寿一他
49	1956.1	VII-1	(「気象研究ノート」へ改題)	山田直勝他
50	1956.3	VII-2		今井一郎他
51	1956.6	VII-3	数値予報	東京数値予報グループ
52	1956.8	VII-4		高橋浩一郎他
53	1956.12	VII-5		高橋浩一郎他
54	1957.3	VIII-1	特別号—新しい出発に臨んで—	畠山久尚他
55	1957.6	VIII-2		高橋浩一郎他
56	1957.8	VIII-3		篠原武次他
57	1957.12	VIII-4		関原 彊他
58	1958.3	IX-1		荒川秀俊他
59	1958.6	IX-2		関谷 溥他
60	1958.8	IX-3	航空と気象	東京航空気象台
61	1958.12	IX-4	最近の大気大循環論	荒川昭夫
62	1959.3	X-1		石川業六他
63	1959.5	X-2	スペクトルの概念による大洋の波の予報 (紹介)	久保時夫
64	1959.7	X-3	水文気象	石原健二他
65	1959.9	X-4		田辺三郎他
66	1959.11	X-5	最近の霧の研究とその展望	黒岩大助・大喜多敏一
67	1959.12	X-6	気候学特集	長尾 隆他
68	1960.1	XI-1	地上気象観測の最近の進歩	大田正次他
69	1960.7	XI-2	メゾ気象学特集	渡辺和夫他
70	1960.9	XI-3		土屋 巖他
71	1960.10	XI-4	数値予報	村上多喜雄他
72	1960.12	XI-5	原子力と気象	大田正次他
73	1961.3	XII-1		鈴木栄一他
74	1961.6	XII-2		箕輪年雄他
75	1961.10	XII-3		久保次郎他
76	1962.1	XII-4	予報技術とその基礎	ワーキンググループ他
77	1962.1	XIII-1	特集—現場でできる雲物理の測定法	宮本正太郎他
78	1962.10	XIII-2		片山 昭他
79	1963.5	XIV-1	特集—日本の天気 (日本気象学会80周年記念号)	唐津 進他
80	1963.11	XIV-2	特集—気象器械 (〃)	清水逸郎他
81	1963.12	XIV-3	特集—応用気象 (〃)	伊藤彊自他
82	1964.5	XV-1	特集—天気予報 (〃)	鈴木栄一他
83	1964.8	XV-2	特集—農業気象 (〃)	三寺光雄他
84	1964.10	XV-3	特集—航空気象 (〃)	上松 清他

85	1965.3	XV-4	特集—工業気象 (カ)	久保次郎他
86	1965.7	XVI-1	特集—西日本 (近畿・中国・四国) の降雨	中島暢太郎他
87	1965.11	XVI-2		須田 建他
88	1966.3	XVI-3		三崎方郎他
89	1966.8	XVII-1		小倉義光他
90	1967.3		気象レーダ特集号	小平信彦他
91	1967.7		気候変動の機構に関するシンポジウム特集号	山本武夫他
92	1967.10			飯田睦治郎他
93	1967.11		雲物理に関する特集号	小林禎作他
94	1967.12		高高度気象解析	杉本 豊
95	1968.7		天気予報に関する特集号	股野宏志他
96	1968.8		総観的立場から見た雲—天気図から天気へのほんやく—	中山 章
97	1968.11		気候変動シンポジウム京都, 1967年11月	福井英一郎他
98	1968.12		最近の気候学研究特集号	新井 正他
99	1969.6		高層気象観測装置特集	小熊一人
100	1969.8		回顧と抱負特集号—戦後20年の時点に立って—	
101	1969.12		特集・オホーツク海の海上気象	大井正一他
102	1969.11		天気分析試論	斉藤直輔
103	1970.3		気象力学における数値シミュレーション	新田 尚
104	1970.6		気象制御・気候改造	土屋 巖
105	1970.11		気候変動特集号	福井英一郎
106	1971.2		70年代の気象学のあり方	根本順吉他
107	1971.8		環境汚染特集号	菊地幸雄他
108	1971.11		L. N. Gutman によるメソ気象学的過程の非線形理論序説	浅井富雄他
109	1971.12		対流に関する研究の現状と問題点	浅井富雄他
110	1972.2		気象力学に用いられる数値計算法	新田 尚他
111	1972.3		気象衛星特集号 (I)	小平信彦他
112	1972.5		気象レーダ特集号	小平信彦他
113	1972.12		気象衛星特集号 (II)	神子敏朗他
114	1973.2		大気境界層内の理論と乱れ測定	島貫 陸他
115	1973.6		日本海の気象	川鍋安次他
116	1973.11		ライダ (レーザー・レーダー) と気象観測	稲場文男他
117	1973.12		モンスーンアジアにおける水の気候	吉野正敏他
118	1974.2		富士山の気象	藤村郁雄他
119	1974.6		都市・建築と気象	塩谷正雄他
120	1974.8		メソ気象	立平良三他
121	1974.10		雲物理特集 I—氷の物性—	前 晋爾
122	1974.11		雲物理特集 II—雲核・氷晶核—	武田喬男他
123	1974.12		雲物理特集 III—雪結晶と雪片・あられ・ひょうの生成—	菊地勝弘他
124	1975.8		流れの可視化法	坂上治郎他
125	1975.10		海陸風と山越え気流	中山 章他
126	1975.11		大気中の内部重力波	田中 浩他
127	1975.12		大気汚染気象特集	横山長之他
128	1976.3		最近の気象学と気象事業の展望気象百年記念論文集	磯野謙治他

129	1976.9	台風特集	山岬正紀他
130	1976.12	気象の測定	斎藤 実他
131	1977.5	スペクトル解析	花房龍男他
132	1977.9	気候の物理的基礎と気候のモデリング	浅井富雄他
133	1977.12	都市気候に関する最近の展望	吉野正敏他
134	1978.3	数値予報(上)・(下)	岸保勤三郎他
135	1978.9	海洋力学	吉田耕造他
136	1979.3	融雪・なだれ特集	小島賢治他
137	1979.10	天気解析	斎藤直輔
138	1980.1	梅雨前線帯の豪雨	二宮洸三他
139	1980.3	気象レーダ特集	小平信彦他
140	1980.8	気候変動シンポジウム(I)―諸要因の変動―	高柳洋吉他
141	1981.5	気候変動シンポジウム(II)―諸要因の変動―	関口理郎他
142	1981.7	エアロゾル特集―基礎編―	三崎方郎他
143	1981.10	気象の情報処理と解析	正務 章他
144	1982.3	気象の遠隔測定(I)	加藤 進他
145	1982.12	衛星資料の利用	会田 勝他
146	1983.2	エアロゾル特集―応用編―	池辺幸正他
147	1983.3	日本とその周辺 of 古気候復元	吉野正敏他
148	1983.5	気象の遠隔測定(II)	加藤一靖他
149	1984.6	モンスーンをめぐる諸問題	住 明正他
150	1984.8	最近の予報	立平良三他
151	1985.2	気象とカタストロフィー	松田佳久他
152	1985.12	気象学における流体実験―風洞を中心として―	竹内清秀他編
153	1986.3	気象教育特集	河村 武他
154	1986.7	雷特集	高橋 劭他
155	1987.1	惑星大気	川端 潔他
156	1987.5	ロスビー波	廣田 勇他
157	1987.8	気候変動国際協同研究計画―WCRP―	岩嶋樹也他
158	1987.9	酸性雨	大喜多敏一他
159	1987.10	近年における世界の気候変動の特徴	田中 実
160	1987.12	炭酸ガス特集	田中正之他
161	1988.2	気象予測の検証と評価	菊地原英和
162	1988.7	日本における気候影響・利用研究の課題	吉野正敏編
163	1988.8	局地循環	荒川正一他
164	1988.10	気象工学―新しい気象制御の方法―	福田矩彦
165	1989.1	航空気象―主として Briefing のために―	中山 章
166	1989.3	応用気象問題における地形因子解析の応用	正務 章
167	1989.9	水循環と水収支	樞根 勇他
168	1990.3	熱帯の対流活動と日本の天候	上野達雄他
169	1990.5	地球監視のための人工衛星計画	土屋 清他
170	1990.7	気象災害―気象学会員への注文	伊藤 学他
171	1991.8	農業気象研究の最近の進歩	内嶋善兵衛編
172	1991.11	メソスケール気象	二宮洸三編

173	1992.1	気象統計	鈴木栄一編
174	1992.5	ファジィ理論と気象学	柳原一夫編
175	1992.10	オゾン研究の展望	近藤 豊編
176	1992.11	赤道大気上下結合	廣田 勇編
177	1993.1	大気・雪氷相互作用	安成哲三編
178	1993.3	気象とソリトン・モドン—気象現象中の孤立波（上）	辻村 豊編
179	1993.5	気象とソリトン・モドン—気象現象中の孤立波（下）	辻村 豊編
180	1993.6	海の波と海面境界過程	鳥羽良明編
181	1993.11	生物圏から大気圏への化学物質の移動	岩坂泰信編
182	1994.3	酸性雨II	大喜多敏一編
183	1995.2	ヤマセ	川村 宏編
184	1995.8	乾燥地の自然環境	光田 寧編
185	1996.3	気象測器—地上気象観測篇	鈴木宣直編
186	1996.4	気象力学から気候力学へ	住 明正編
187	1996.8	地球環境のマイクロ波放射計リモートセンシング	早坂忠裕編
188	1996.11	気象教育	島貫 陸編
189	1997.12	1993年/94年夏の異常気象の解明	安成哲三編
190	1998.7	雪崩	西村浩一編
191	1998.9	過去2000年間の気候変動とその要因	三上岳彦編
192	1998.9	GPS 気象学	内藤勲夫編
193	1999.1	つくば域降雨観測実験	吉崎正憲他編
194	1999.4	気象測器・高層気象観測編	田中豊頭他編
195	1999.5	陸面過程の研究の現状と将来	馬淵和雄編
196	1999.9	非静力学モデル	斉藤和雄編
197	2000.3	台風—解析と予報—	鈴木和史・元木敏博編
198	2000.7	温帯低気圧の力学	高菟 出
199	2001.3	地表面フラックス測定法	塚本 修・文字信貴編
200			